

患者の体位など)。③ 2人が1組となり、相手の差し出した鏡を見ながら自己の名前書き(ひらがな, 漢字, ローマ字など), 図形の線引き, 迷路たどり(単純, 複雑なもの)。④ 各自での迷路たどり(複雑なもの)。⑤ 診療室内でデンタルミラーを用いて顎模型の歯を探針で触れる練習(マネキン使用)。⑥ 体験学習後質問紙調査(ポストアンケート: 8項目)とした。

(結 果) プレアンケートの結果では年度間に関係なく「日常生活において鏡を毎日みる」, 「歯科健診や歯科治療に鏡を使用すると思う」, 「歯科健診や歯科医院で鏡の使用を見た」との回答率が高かった。ポストアンケートの結果では「本体験学習は楽しかった」が, 鏡を使用しての名前書き, 図形の線引きおよび迷路たどりは「逆に写るところが難しく」, 体験してみて「眼や首が疲れた」との回答率が高かった。また, 平成17年度, 平成18年度ともに「歯科診療においてミラーテクニックは必要だと思う」とすべての者が回答しており, さらに「本格的なミラーテクニックを習得したいと思う」および「本体験学習を受けて歯科医師になる目的意識があがった」との回答率が高かった。

(結 論) 質問紙調査の結果から本学歯学部1年生においてデンタルミラーは歯科健診や歯科治療に使用されているなど, その認知度は高いことがうかがえた。また, 平成17年度, 18年度ともに日常に使用されている鏡に関連したミラーテクニックの体験学習は鏡の日常の使われ方と異なるので「難しかった」, 「疲れた」などの回答が多く認められたが, 「楽しかった」と回答した者も多く認められた。さらに, 臨床におけるミラーテクニックの重要性を認識することができ, 将来, 歯科医師になる目的意識が「あがった」と回答した者も多く, 本体験学習の有用性は高いものであったと思われた。

## 11) Ohio State UniversityおよびOhio Children's Hospitalの歯科麻酔臨床

○山崎 信也

(奥羽大・歯・口腔外科)

(緒 言) 学会や留学などを通して, 世界的または全国的に進んでいる点を捕らえ, 良いところ

は積極的に本学に取り入れていく必要があると思われます。今回, ニューオリンズでのIADR参加に先だって, Ohio State University(OSU)で講演をする機会を頂き, 同時に3日間にわたってOhio State UniversityおよびOhio Children's Hospitalでの歯科麻酔臨床を視察する機会を得ましたので, その概要を報告致します。

(概 要) OSUはOhio州Columbusにあり, 日本で言うところの仙台に気候, 人口, 治安などが非常に近い。OSUは多くの学部と多くの学生を抱え, 広い敷地の中心にはフットボールスタジアムを持つ。歯学部は学生数や病院規模は当大学とほぼ同じであるが, 患者数は非常に多い。歯学部における日帰り全身麻酔症例は日本の平均的な医学部附属病院よりも多く, 関連病院であるOhio Children's Hospitalを合わせると, 約2倍となる。いずれも外来部門よりも, 日帰り全身麻酔部門の方が多くを占めている。

(結 語) 世界を見てくると, 国際学会に参加すること, 学問の交流を大切にすることに大きな意味があると痛感しました。麻酔が安全になると, 苦しんで歯科治療を受ける時代ではなくなり, 各診療科と歯科麻酔科のつながりが更に強くなると思われます。入院下では種々の医療事故が付きまといまいます。極力, 不要な入院を減らした外来管理が, 医療安全の面でも発展していくと思われます。麻酔管理症例を増やす事が, 病院が利益を上げ生き残っていく手段にもなると思われました。

## 12) ソケットプリザベーション後の治療経過に関する臨床的検討

○塚本 光, 宮下 照展, 馬庭 暁人, 渋谷 洋子  
中江 次郎, 金 秀樹, 大野 敬

(奥羽大・歯・口腔外科)

歯の喪失や歯槽部皮質骨の吸収によって生じた陥凹部分を長期間放置すると高さや幅径が減少し, 歯槽堤の温存が困難となることがある。

今回, 当科でインプラント治療前提の患者を対象にソケットプリザベーションを施行した12例15部位の中で経過を追えた2例と対照症例2例について輝度および回復率を用いて抜歯後の治療経過について検討したので報告した。